

第5次 地域福祉活動計画



発行
美浜町社会福祉協議会
〒919-1141 福井県三方郡美浜町郷市 25-20
(保健福祉センターはあとぴあ)
電話 0770-32-1164

美浜町社会福祉協議会

はじめに

美浜町社会福祉協議会
会 長 乙 見 康 夫



平素は、美浜町社会福祉協議会の活動に対し、ご理解とご協力、ご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、美浜町の地域福祉の推進にご尽力いただいております地域住民の方々や関係する諸団体の皆さまに、この場をお借り致しまして深く感謝申し上げます。

当会では、集落を基盤とした小地域ネットワーク活動の推進を目的に、福祉委員・民生児童委員をはじめとした地域住民のみなさんとともに地域力の強化に取り組んでいます。また、近年では特に、社会的孤立や様々な理由で生きづらさを抱える人など、多方面からの包括的な支援を必要とする人が増えています。

このたびの「第5次美浜町地域福祉活動計画」は、町の「第3次美浜町地域福祉計画」と連携しながら『ひとりのしあわせのために みんなで育む「ほっとかない」まち』の実現を目指して策定されました。当会もこの活動計画に基づいて、地域福祉を支える住民の皆さま方と一丸となって住みやすいまちづくりに努めて参ります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりご尽力を賜りました策定委員の皆様をはじめ、アンケート調査等にご協力いただきました町民の皆様に厚く御礼申し上げます。

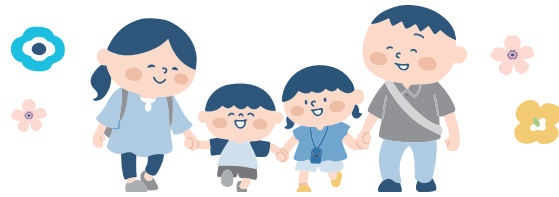
令和6年3月

もくじ

I、計画の概要	1
1. 地域福祉活動計画とは	1
2. 計画の位置づけと期間	1
3. 計画の策定方法	2
II、第5次地域福祉活動計画について	3
1. 総合目標	3
2. 基本目標	3
3. 計画の体系図	4
4. 重点目標と主な取り組み	5
III、資料	
・町民アンケート集計結果	13
・策定委員会、ワーキング部会名簿	27



1. 計画の概要



1. 地域福祉活動計画とは

社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が策定する計画です。「すべての住民」「地域で福祉活動を行う者」「福祉事業を経営する者」が相互に協力して地域福祉を推進することを目的とする、実践的な活動・行動計画です。つまり、住民一人ひとりが、地域の生活課題を自分たちの問題として捉え、その課題の解決にむけて具体的に取り組んでいくための計画です。

2. 計画の位置づけと期間

本計画は2024年4月～2029年3月の5ヵ年計画として策定することとします。また、本計画は美浜町が策定する「地域福祉計画」と連携し、いわば“両輪”となって、地域福祉を推進していきます。

行政 住民 各種団体等



美浜町地域福祉計画

美浜町地域福祉活動計画

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
総合振興計画	第5次 後期基本計画						
地域福祉計画		美浜町地域福祉計画（第3次）					
地域福祉活動計画			第5次 美浜町地域福祉活動計画				

3. 計画の策定方法

■ 町民アンケートの実施

本計画は住民のニーズに根差して策定されています。町民アンケートによって、町民のみなさんの生活課題を把握し、それを解決するために必要な地域活動や、社協としての支援を検討して、計画に反映しています。

■ 策定委員会の開催

アンケート結果を基に、計画の基本理念や策定における意義・目的などの、計画の基盤について協議し、決定していくために策定委員会を3回実施しました。策定委員には、各地区からの地域住民やNPO法人やボランティア団体、また行政機関や教育関係者など多様な立場の方々が参加し、計画策定にむけて協議を行いました。

■ ワーキング部会

計画策定にむけての具体的な計画や、その準備のために、美浜町社協の地域福祉グループ職員と、美浜町健康福祉課の職員を交えて、ワーキング部会を開催しました。職員が把握している住民の声や、日々直面する福祉的な課題も、本計画に盛り込まれています。

日程	項目	主な内容
令和5年 8月 7日(月)	第1回 ワーキング部会	・計画策定スケジュール ・第4次計画の評価
令和5年 8月18日(金)	第2回 ワーキング部会	・第4次計画の課題
令和5年 8月31日(木)	第1回 策定委員会	・策定委員会の立ち上げ、策定計画について ・研修会「地域福祉計画と地域福祉活動計画について」
令和5年 9月 6日(水)	第3回 ワーキング部会	・第4次地域福祉活動計画からの課題整理 ・町民アンケートについて
令和5年 10月	町民アンケート調査の実施	【対象】 集落：気山区、郷市区、河原市区、野口区、山上区、北田区 町内全保育園・小中学校の保護者、美浜中学校生徒、美方高校生徒（美浜在住）
令和5年 12月25日(月)	第2回 策定委員会	・第4次地域福祉活動計画の評価と課題 ・アンケート調査結果の報告 ・意見交換
令和6年 1月15日(月)	第4回 ワーキング部会	・策定委員会での意見まとめと計画への反映 ・第5次地域福祉活動計画の内容について
令和6年 1月23日(火)	第3回 策定委員会	・第5次地域福祉活動計画の概要 ・意見交換
令和6年 1月29日(月)	第5回 ワーキング部会	・第5次地域福祉活動計画の概要

II. 第5次地域福祉活動計画について

1. 総合目標について

コロナ禍を経た今、地域住民同士のつながりの希薄化が進み、「困った」「助けて」の声が挙げられず、孤独感・孤立感を抱える世帯も増えています。経済的な困窮に合わせて、「つながりの困窮」を感じる世帯も多くあり、生活課題の多様化、複雑化に合わせて、それを支える仕組みも柔軟に変化していかなければなりません。

一方で、福祉委員会活動やみんなの食堂、当事者同士の場づくりなど、地域住民が主体となった支え合いの取り組みも創出され、一人の困りごとを地域で支えるための資源が生まれており、活動の継続とさらなる発展が期待されます。

「誰かの困りごとを、地域全体の課題として捉えられる地域づくり」「一人ひとりの多様な価値観を受け入れ、その人らしい暮らしが送れる地域づくり」を目指すために、総合目標は第4次地域福祉活動計画から引き続き、『ひとりのしあわせのために みんなで育む「ほっとかない」まち』としました。

2. 基本目標について

地域から孤立する人々は、住民から自分を知ってもらう機会もなく、また周囲その人を知る機会もないまま、さらに孤立が深まっていきます。住民がお互いのことを「知る」ことが思い込みや偏見を無くし、「つながり」を構築するきっかけになります。

また、自分の関心があることで気軽に住民同士が集える場を創出することで「つながり」を育み、住民同士がお互いを「知る」ことにつながります。

繋がり合って構築されたネットワークは、「支え合い」の体制へとつながります。

誰かの生活課題に誰か一人で向き合うのではなく、地域におけるネットワークを活用してお互いに相談し合いながら、解決に向かっていくことが、新たな社会資源の創出にもつながっていきます。

以上から、「知る・つながる」そして「支え合う」を基本目標としました。



3. 計画の体系図



基本目標	重点目標	主な取り組み	掲載頁
知る つながる 	一人ひとりの思いを知ろう	・お互いの思いを共有できる機会の創出 ・福祉について学ぶ場の創出	6
	みんなが参加できる(したくなる)集落活動をみんなで考えよう	・時代や集落の特徴に合わせた活動の検討、実施 ・世代を問わず集まれる場の継続と創出	7～8
	一人ひとりの居場所を増やそう	・集落を問わず同じ関心事を持つ人同士が集える場への参加や創出 ・同じ思い、同じ立場にある人同士の交流の場の継続と創出	8
	「たすけて」の声を出しやすい、届きやすい地域を作ろう	・日頃の身近なかかわりでつながる機会の確保 ・必要な住民への情報の送受信の確保	9
支え合う 	一人ひとりの力を集めよう	・集落ごとの福祉活動計画の策定 ・一人ひとりが活躍する場面の創出	10～11
	一人の困りごとをみんなで支えよう	・チームでニーズに対応する体制づくりの強化 ・社会資源の活用と創出 ・災害時ひとりも見逃さない体制づくり	11～12



4. 重点目標と主な取り組み



基本目標1 知る・つながる

現状とこれまでの取り組み

■ コロナ禍について、若い世代は仕事や趣味等のコミュニティにおけるつながりが継続されており、他者とのつながりの希薄化があまり見られていない一方で、特に高齢世帯では、孤立感・孤独感の増加など、大きな影響が見られます。地域におけるコミュニケーションの不足が、高齢者の社会参加の機会を奪う要因のひとつになっています。今一度、集落におけるつながりの再構築が必要な状況です。

■ 福祉学習の取り組みについては、年々実施される授業時間数が増える中で、学習のテーマに多様性、つまり「お互いをよく知ることの大切さ」を盛り込んだ授業を実施することができました。一方で、福祉の学びを子ども達だけではなく、大人にも広げていく活動は実施できていません。



福祉学習の様子（障がいがある方との交流）

福祉学習では、高齢者・障がい・妊婦・性的マイノリティなど、様々なテーマを取り扱い、多様性への理解を深めています。また、当事者との交流も大切にしています。

■ 精神疾患や障がい等に対する地域住民の思い込みや偏見から、生きづらさを抱えている人が見受けられます。また、本人がかかわりを求めていることもあり、地域から孤立しているケースも見受けられます。

アンケート結果より

■ 町民アンケートでは、集落の愛着について、若い世代ほど「どちらでもない」と返答する人が多く、また自由記述からは世代間で集落活動への参加意識や意欲が異なることが分かりました。今後集落活動が継続されるためには、世代を超えたコミュニケーションの機会創出と、延いては、地域住民同士がお互いを理解する機会の創出が求められています。

■ また、「困っている人を見かけた時の対応」について、「何もしない」と返答した方が一定数見られ、理由として「その人を良く知らない」が最多でした。地域住民のお互いに対する無関心や無理解を解消し、お互いを“知る”ことが、誰一人として“ほっとかないまちづくり”につながると考えます。

策定委員会での意見

■ 「世代や生活状況によって関心のある事柄は異なるが、それぞれに合った取り組みが実施されたら、自ずと積極的に活動に参加できるようになるのではないかと。また、集落で世代ごとの住民で構成された団体（子ども会や青年会、老人会など）の活動が、住民の主体的な活動参加に大きな役割を担うのではないかと。」

重点目標① 一人ひとりの思いを知ろう

集落活動への思いは、世代や生活環境によって異なります。そしてそれは一人ひとりが地域生活の中で大切にしていることや抱えている生活課題が異なるということでもあります。一人ひとりの価値観を受け入れ、誰もが住みやすい地域づくりを進めていきましょう。

主な取り組み① お互いの思いを共有できる機会の創出

住民同士が集落活動について意見を交わすことができる機会を創出、または参加しましょう。その場で新たな出会いやつながりも生まれます。普段感じていることを共有し、一人ひとりの集落への思いを知り、それをお互いに尊重できる地域づくりを進めていきましょう。

取り組みのアイデア：集落活動に関するアンケートを実施してみましょう。自ら声を上げにくい人の声も聞くことができます。

主な取り組み② 福祉について学ぶ場の創出

福祉委員会や自治会等が中心となって、住民が身近に感じる福祉的なテーマ（防災や介護など）について学べる機会を作ったり、参加しましょう。住民同士が集まって気軽にコミュニケーションを取れる場を作ったり、参加したりすることが、自然と多様性を学べる機会につながります。



菅浜区福祉委員会（ふくむすびの会）では、定例会議の最後に、資質向上のための研修会を行っています。見守りに関すること、災害時の対応に関する事など、テーマは様々です。

重点目標② みんなが参加できる(したくなる)集落活動をみんなで考えよう

集落活動に前向きな住民もいれば、それを負担とを感じる人もいます。しかし、一人ひとりが関心のある活動が実施されたら、前向きに参加することができます。自らやってみたい取り組みを考えてみたり、それを共有したりできる機会を作りましょう。

主な取り組み① 時代や集落の特徴に合わせた活動の検討、実施

集落活動の継続のためには、時代や集落の実情に合わせて柔軟に変化していくことも必要です。「毎年やっているから」ではなく、今の集落にはどんな活動が必要かを考える機会をつくりましょう。また、時代に合わないから辞める…ではなく工夫して継続できないか、もしくは新たな取り組みとして実施できないか考えてみましょう。

取り組みのアイデア：集落にある各団体（老人会や青年会、子供会など）は世代や生活状況に応じて構成されており、世代ごとの住民の意見が汲み取りやすいと言えます。各団体が、集落活動として何ができるかを考えて、実行していくことで、あらゆる世代の住民がもっと住みやすい集落につながっていきます。

主な取り組み② 世代を問わず集まれる場の継続と創出

町内では、主に高齢の方を対象としたふれあいサロンや、また世代を問わず参加できる「みんなの食堂」、空き家を活用した集い場など、多様な集いの場が開催されています。普段関わりが少ない方達との交流は、お互いの集落への愛着を育むきっかけにもなります。継続的な場の開催と、新たな場の創出を目指していきましょう。



ふれあいサロンでの会食（河原市）



だれでもウエルカム食堂
（みんなの食堂）の様子（菅浜）

福祉関係者を中心として、主に高齢の方々の孤立感の解消（つながりづくり）や健康づくりのために、ふれあいサロンが、町内各集落で実施されています。

町内5か所（三ヶ・久々子・山上・菅浜・河原市）でみんなの食堂が開催されています。



空き家を活用した集い場・山野草の家（麻生）

集落の空き家を活用した集い場で、集落を越えた様々な方の憩いの場となっています。

重点目標③ 一人ひとりの居場所を増やそう

自分の“心の居場所”を増やしましょう。自分が心から楽しめたり、安心できたりする場所がある、そしてそのような人がいるということは、自分らしい生活を送るうえでとても大切なことです。物理的な居場所ではなく、自分の心が豊かになる、そしてやすらげる場所を見つけたり、作ったりしていきましょう。

主な取り組み① 集落を問わず同じ関心事を持つ人同士が集える場への参加や創出

集落内外を問わず、つながりを育める場に参加してみましょう。例えば子育て世代では子どもに関すること、高齢者世代では介護や健康づくりに関することなど、興味があることは異なります。同じ地域の住民同士のつながりだけでなく、場所に限らず“好きなもの・こと”や“興味のある分野”をきっかけとした集まりを作ったり、参加したりしましょう。

取り組みのアイデア：すでにある講座や行事、企画に興味があれば参加してみましょう。活動をとおして新たな出会いや気付きも生まれます。またこんなことができるかも…と思うことは、自分から、もしくは仲間を集めて取り組んでいくことも大切です。

主な取り組み② 同じ思い、同じ立場にある人同士の交流の場への継続と創出

不登校の児童・生徒、保護者を支援する組織や居場所として、「教育支援センターなないろ」「はじめての一步」などが活動されています。また、美浜町社協でも様々な場を開催しています。生活課題が多様化・複雑化する中で、同じ不安や悩みを抱える方同士がその思いを分かち合える場の大切さが増しています。自分の悩みや不安を分かち合える場に積極的に参加していきましょう。



「はじめての一步」で語り合う参加者



重点目標④ 「たすけて」の声を出しやすい、届きやすい地域を作ろう

生活における困りごとは、誰にでもあることです。自分だけでは解決できない場面に直面したとき、困っているということを誰かに伝えられる、またそれを受け取ることができる関係性が重要です。住民同士の無関心が無理解につながり、困りごとを抱える人のニーズが深刻化してしまうことも考えられます。身近な日頃の関わりをもつことで関心や気づきが生まれます。

主な取り組み① 日頃の身近なかかわりでつなげる機会の確保

すれ違う時のあいさつや、ちょっとした世間話でも、身近な人同士が顔見知りになり、困ったときに声をかけやすい・かけられやすい関係性の構築につながります。はじめは一对一のつながりでも、それが広がっていけば、誰かの困りごとをキャッチするネットワークにつながっていきます。

主な取り組み② 必要な住民への情報の受発信の確保

必要な情報が届きにくい環境の人や発信しにくい状況の人もあります。集落活動や災害時の情報が必要な人に届くためにも、つながりは不可欠です。「困っている人がいるかもしれない」「あの人、この情報を知らないかもしれない」という意識を持つことも、つながりから生まれます。

重点目標④の取り組みは、「知る・つなげる」だけでなく、基本目標2の「支え合う」にもつながります。

美浜町社協の取り組み

- ふれあいサロンの開催をお手伝いさせていただきます（レクリエーション道具等の貸出や、健康体操等における職員派遣など）。どんなことでもお気軽にご相談ください。
- おはなし会（大切な方を亡くされた方同士の場）や介護者交流会など、同じ思いや悩みを分かち合える場づくりを行っています。思いを分かち合える場は自分の新しい「居場所」へとつながります。
- 町内各学校での福祉に関する授業に協力していきます。また今後は、福祉に関する関心事について、子どもだけではなく、世代と問わず学べる場づくりを行っています。
- みんなの食堂の開催をお手伝いさせていただきます。「やってみたいけど、他の集落ではどのように開催しているのか知りたい」「立ち上げたいけど運営がうまくいくか心配」などの相談に応じ、情報提供させていただきます。

基本目標2 支え合う

現状とこれまでの取り組み

- 町内の福祉委員会設置数は、第4次地域福祉活動計画策定からの5年間で5集落増加し、令和5年度現在で31集落となっています。見守り活動を継続して実施されており、コロナ禍においても感染リスクを鑑みて電話連絡やLINE等を活用して活動が継続されてきました。



見守り活動における訪問の様子（河原市）

毎月の見守りが地域住民の安心につながっています。細かな情報が災害時対応にも活かされています。

- 町民の声から、美浜町社協では「おでかけワゴン」「はあとステーション」等、ニーズに応じた事業を実施してきました。これからもさらなるニーズ把握を行い、それらを美浜町社協の事業に活かしていきます。また誰かの困りごとを“地域全体の困りごと”として捉えられる地域づくりを推進していくことが、「誰もが住みやすい地域」につながると考えています。



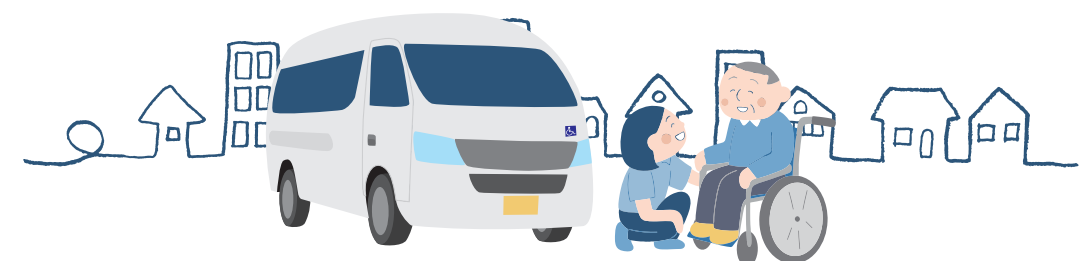
おでかけワゴン



ボランティア喫茶「はあとステーション」

策定委員会での意見

- 集落の特徴は様々であるため、一つの活動計画だけに基づいて活動していくのは難しいと思う。そのため、それぞれの集落が独自の福祉活動計画を策定するなど、集落の特性や課題に応じて、活動を主体的に進めていける仕組みが必要だと思う。



重点目標① 一人ひとりの力を集めよう

集落住民の声を集めたら、集落の特徴や現状に合わせてその集落らしい取り組みとは何か、考えてみましょう。また、これから今以上に住みやすくなる集落の実現に向けて住民一人ひとりが自分にできることを考え、実行しましょう。

主な取り組み① 集落ごとの福祉活動計画の策定

集落で描く将来像や住民の生活課題は様々です。住民がお互いの意見を出し合い、具体的な活動を計画してみましょう。

取り組みのアイデア：集落ごとの「福祉活動計画」を策定しましょう。
福祉的なニーズや、活動の方向性を“見える化”できます。

主な取り組み② 一人ひとりが活躍する場面の創出

一人ひとりの興味のあることや楽しみ、やりがいはそれぞれ異なります。様々な意見で自分が得意なことを活かしながら周囲に認められる活動は、その人の生きがいにもつながります。



南市区ふれあいサロンの様子。
区民でハープ演奏が得意な方が
おられ、その方を招いて演奏会
が行われました。

重点目標② 一人の困りごとをみんなで支えよう

誰かの困りごとを、地域全体の困りごととして捉え、それを支え合う仕組みを作っていきます。近隣住民同士の支え合いに対する意識向上の機会を、集落で作っていきます。

主な取り組み① チームでニーズに対応する体制づくりの強化

町内 31 集落で設置されている福祉委員会では、集落によって異なりますが、民生児童委員や福祉委員、老人家庭相談員などの福祉関係者が、地域住民の生活課題をキャッチしたり、集落内のつながりづくりのための活動を行っています。一人だけではなく、チームで協力することで、幅広い生活課題に対応することができる体制が作られています。

主な取り組み② 社会資源の活用と創出

社会資源とは、誰もがその地域で安心して暮らせる地域づくり、そのために役立てられるすべてのもの（人、団体、活動など）を指します。一人のニーズを基に社会資源を作り、同じようなニーズを抱える人がいても支えられる仕組みを作っていくことが、誰もが住みやすい地域づくりにつながっていきます。

主な取り組み③ 災害時ひとりも見逃さない体制づくり

日頃からの自助（自分で自分の身を守る）はもちろんのこと、共助（周囲の人達が協力して助け合う）も大切です。自主防災組織の活発な取り組みが進められている集落も増えており、また福祉委員会と連携し、より細かなニーズ把握と災害時対応の仕組みづくりを進めている集落もあります。「まさか」に備える体制を作っていきます。



郷市区自主防災組織では、大規模な防災訓練（写真）に加え、楽しみながら防災意識の向上が図れるよう、工夫しながら活動が継続されています。

取り組みのアイデア：集落行事やイベントに、介護予防等の健康づくりや、災害時対応など防災に関する企画を取り入れてみましょう。
自然に学びが広がります。



上野区の「ふくしのつどい」では、会食等で和気あいあいとつながりを育みながら、参加者で消火器の使い方を学んだり、区内の消火栓の場所を確認したり、また詐欺被害予防の研修を受けたりしています。

美浜町社協の取り組み

- 各福祉委員会ごとに担当職員を配置し、活動のお手伝いをさせていただいています。
- 生活困難者支援として、日常生活自立支援事業（金銭管理のお手伝い）や、生活福祉資金貸付の受付を行っています。また事業や制度にとらわれず、その狭間にいる人たちに対しても、訪問等を通じて継続的な支援を行っています。



令和5年度 町民アンケートの結果

配布先 6集落 421 世帯（気山区、郷市区、河原市区、野口区、山上区、北田区）
 町内の全保育園の保護者 207 世帯、小中学校の保護者 471 世帯
 民生児童委員 48 名、福祉委員 83 名
 美浜中学校・美方高校（美浜町在住）の生徒 259 名

配布数合計 1,489 世帯

調査方法 郵送調査、Web 調査

回収率 回収率 54%（804 名）

回答者の性別

女 性：519 名
 男 性：280 名
 その他： 1 名
 無回答： 4 名

回答者の年代

10 代	149 名	18.5%
20 代	13 名	1.6%
30 代	148 名	18.4%
40 代	163 名	20.3%
50 代	66 名	8.2%
60 代	139 名	17.3%
70 代	91 名	11.3%
80 代以上	31 名	3.9%
無回答	4 名	0.5%
合 計	804 名	100.0%

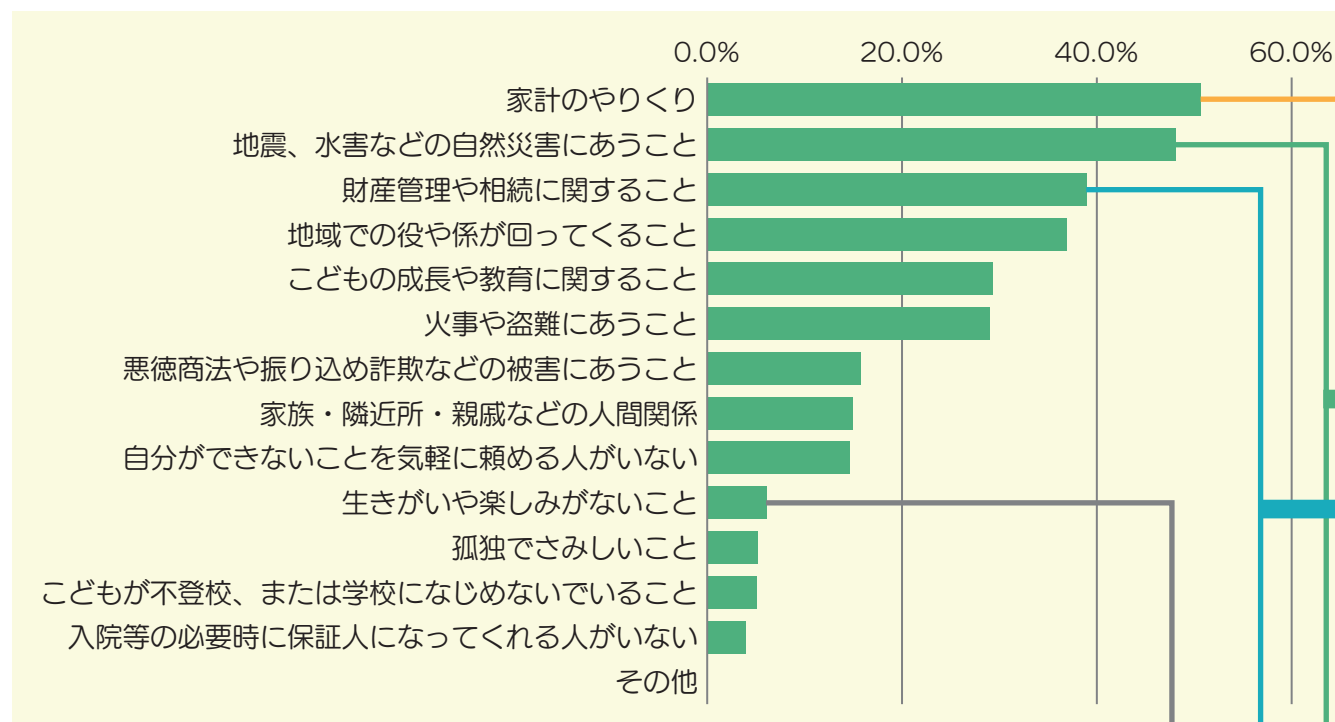
※ 中高生へのアンケート
 は、回答していただきや
 すいように、別設問を作
 成して配布しました。





あなたが今の暮らしで困っていること、
また今後の暮らしで不安なことはどんなことですか？（複数回答）

【今の暮らしで困っていること】



「今の暮らしの困りごと」また「今後の暮らしで不安なこと」ともに、「家計のやりくり」を選んだ人の割合が、多くなりました。これはいずれの世代でも同様であり、あらゆる世代の住民が経済的な不安を抱えていることが分かりました。



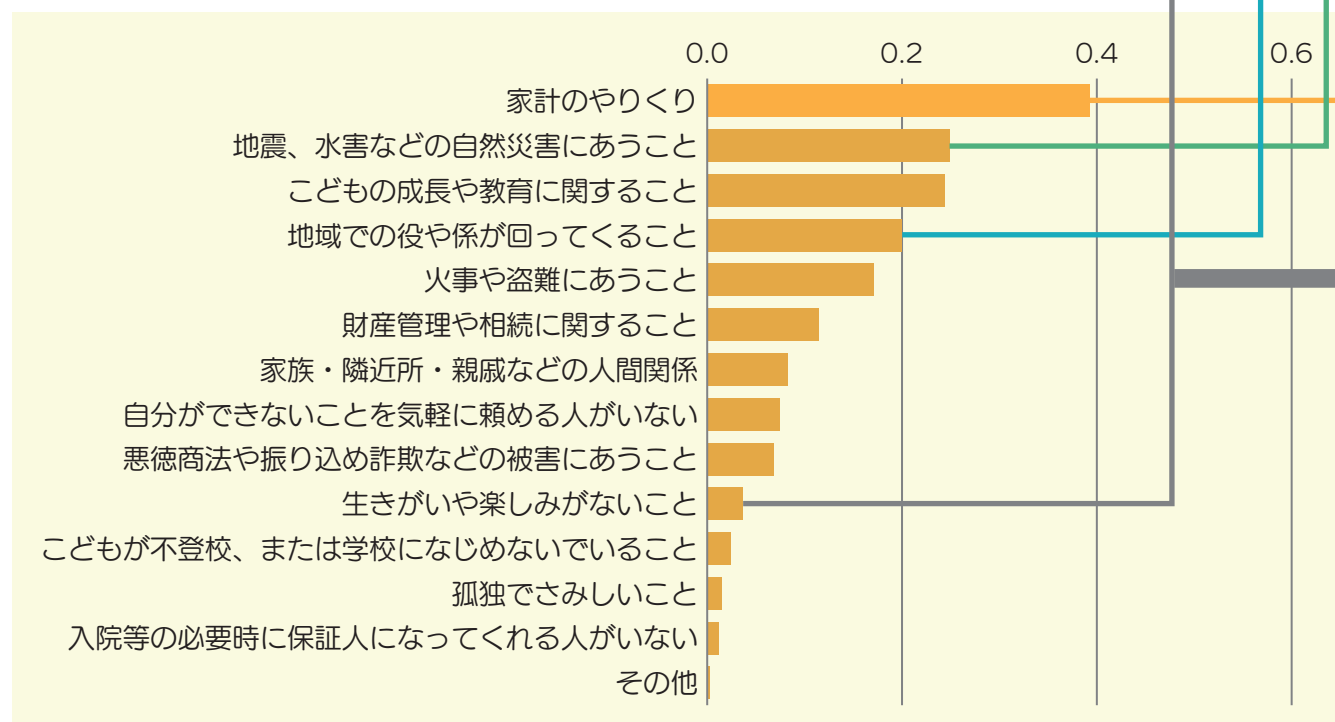
自然災害にあうことを不安に思う人の割合も全体的に高く、中でも特に60代以降の方の割合が高くなっています。地域で防災に関する取り組みをさらに進めていくことが求められています。



またさらに「地域での役や係りが回ってくること」を選んだ人の割合も、全ての世代で高くなっており、集落活動を負担に思う人が多いことが読み取れます。



【今後の暮らしで不安なこと】



「生きがいや楽しみがない」「孤独でさみしい」と返答した人は全体の中で少数であり、見過ごされがちな地域課題であると考えられます。



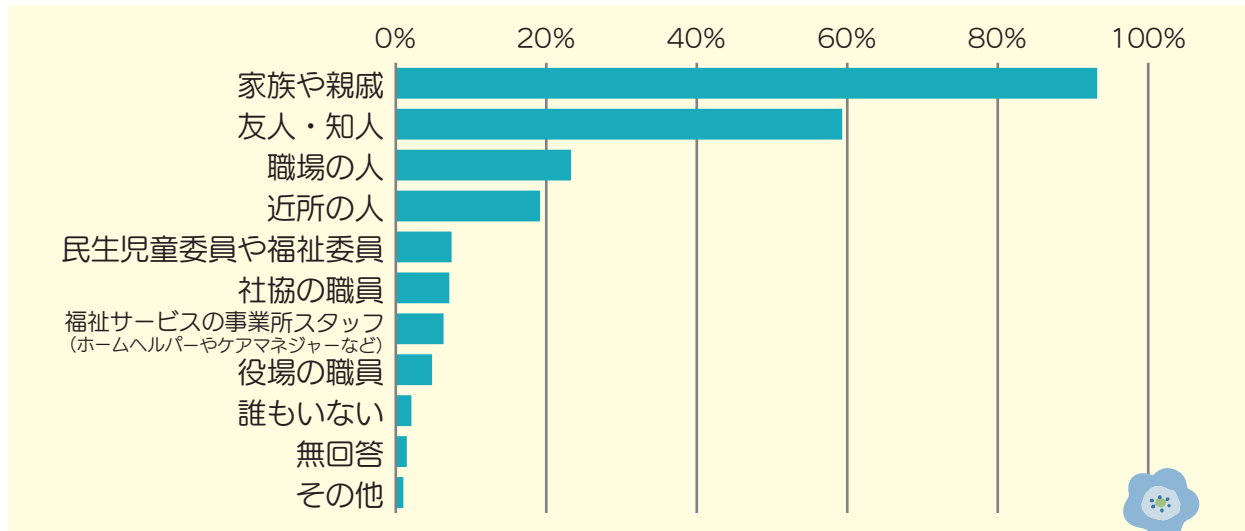
「その他」の意見としては、介護や子育てに関する負担感と、それに伴う制度やサービスの充実を求める声が聞かれました。



- ・除雪を助けてくれる人がいない
- ・仕事と家事育児の両立
- ・孫守りの負担が大きい
- ・病院が少ないこと
- ・収入が少ないこと
- ・交通の便がない
- ・空き家や近隣住民とのトラブル
- ・原発事故への不安
- ・親の介護が大変
- ・高齢化に伴う町の今後など…

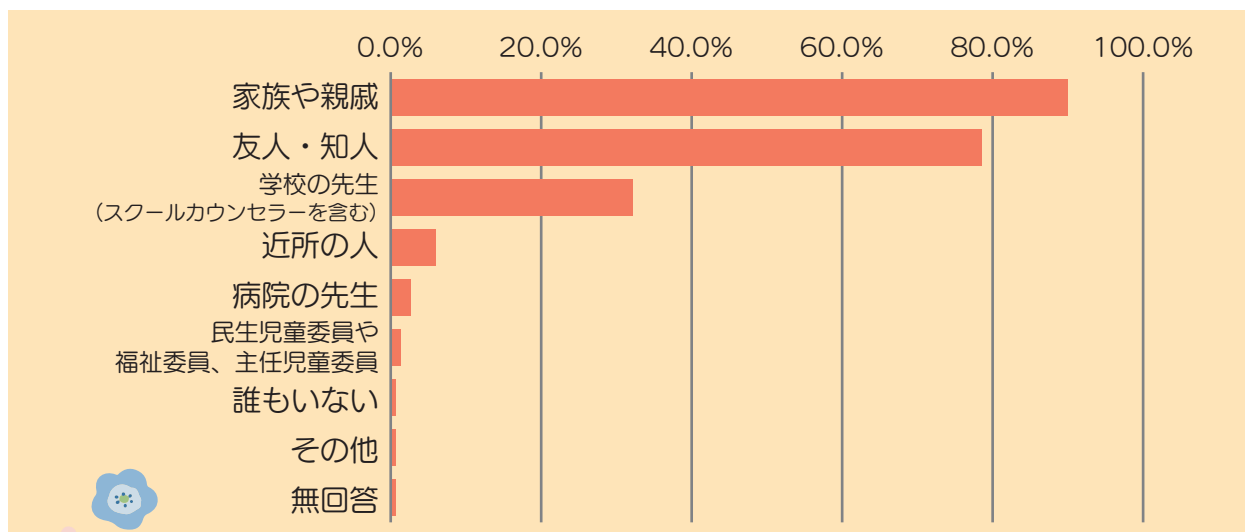


あなたが、困りごとを相談したり
手助けしてもらえるのはどんな人ですか？（複数回答）



困りごとの相談相手は家族や親戚が最も多くっており、ついで友人や知人が多く
なっています。「近所の人」を選んだ人は60代以降では3割程度となっていますが、それより
も若い世代では1割程度にとどまっており、若い世代ほど地域とのつながりが希薄である
ことが読み取れます。また「誰もいない」と答えた人もおり、自ら助けを求める相手もあ
らず、声も上げられない人がいることも分かりました。

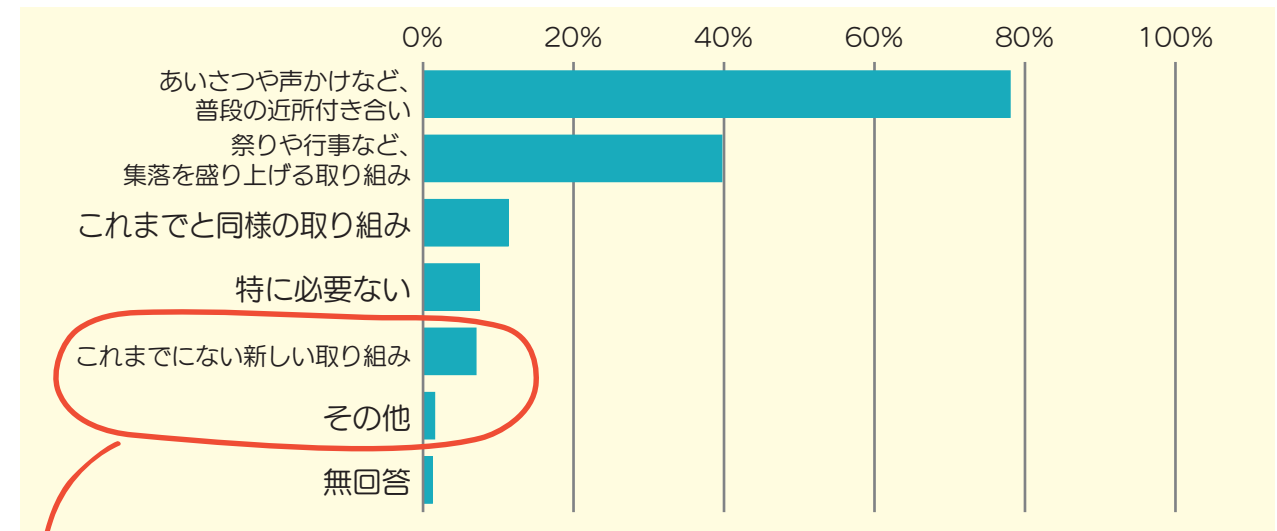
中高生（複数回答）



中高生の返答でも、「家族や親戚」が最も多くなりました。また、「友人・知人」の割合
も同様に高くなっています。「近所の人」の割合が低いことから、中高生のアンケートから
も、若い世代ほど地域とのつながりが希薄であることが分かります。また中高生にも「誰も
いない」と答えた人がおり、家族や友人などにも頼れない子ども達がいることが分かりま
した。



集落の人同士のつながりをさらに強くするためには、
何が必要だと思いますか？（複数回答）



「地域のつながりを強くするために必要なこと」としては、「あいさつや声かけなど
の普段の近所付き合い」を選んだ人が、どの世代でも最も高い割合となりました。特
別なことではなく、日常的な何気ない関わりが大切だと考えている人が多いことが分
かります。一方、「特に必要ない」と答えた人の割合は、20代～30代では約15%
に上りました。

【一部抜粋】

- ・しきたりなどにとらわれず、強制感がない行事
- ・同じ悩みを持つ人が集まるとよい
- ・気軽に集える場が家の近くにあればよいと思う
- ・みんなの食堂など世代問わず集まれる場
- ・具体的なアイデアがあれば実践しているが、それが分からないから困っている



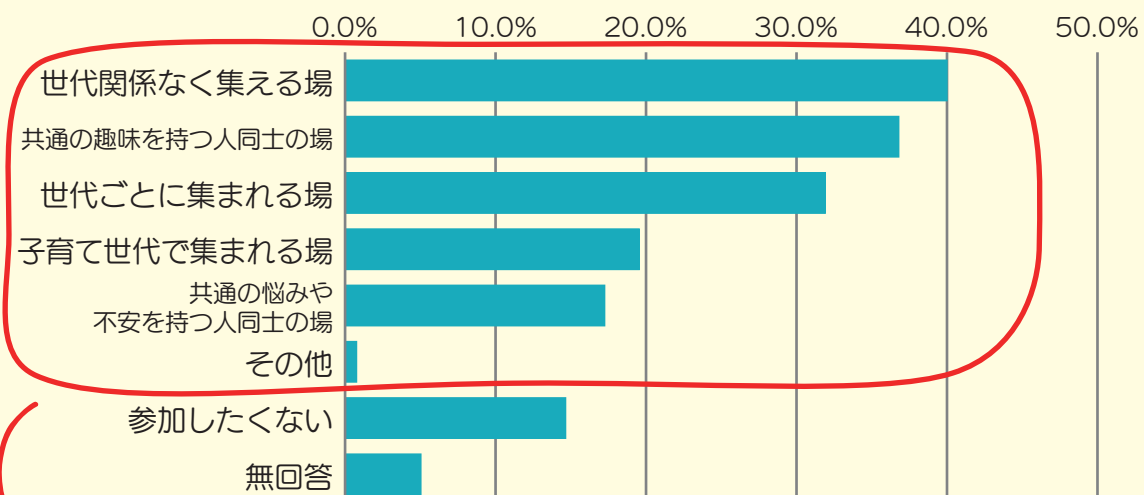
「これまでにない新しい取り組み」または「その他」
を選ばれた方からは、主に30代から60代の方には、
集落活動における負担感や強制感についての意見が聞か
れました。一方で、空き家の利活用や移住者の受け入れ、
気軽に集える場づくりなど、さらに地域を活性化してい
く取り組みについての声が聞かれました。



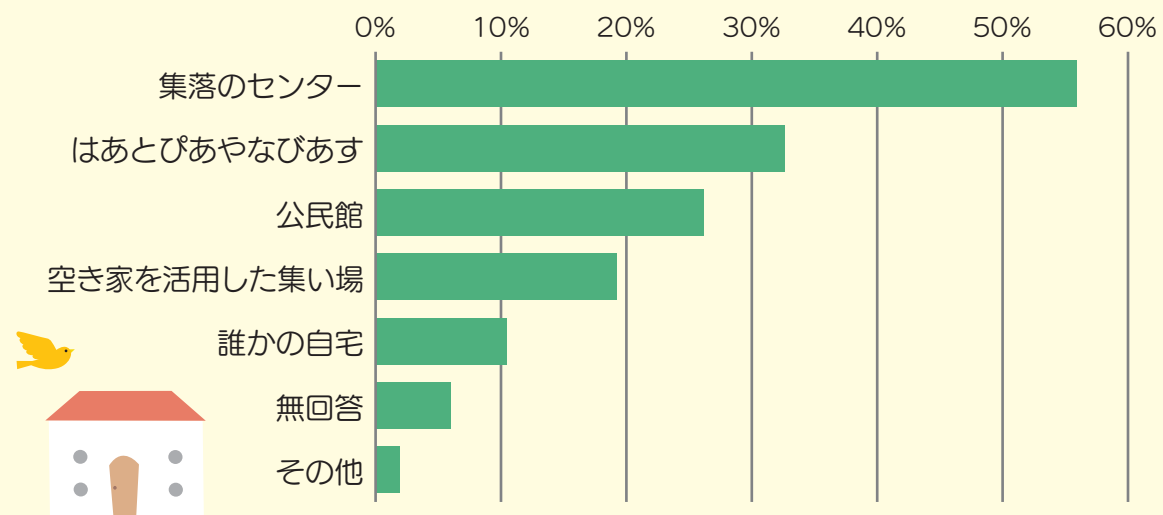


集いの場について、あなたは どのような場であれば参加したいですか？（複数回答）

「世代ごとで集まれる場」と「世代を問わず集まれる場」、また「共通の趣味を持つ人同士の場」を選んだ人は、いずれも高い割合でみられました。一方で、「参加したくない」とした人の割合は20代～30代で約23%と高い割合で見られ、人とのつながりを求めている人達が多いことも分かりました。



どんな場所が集まりやすいですか？（複数回答）

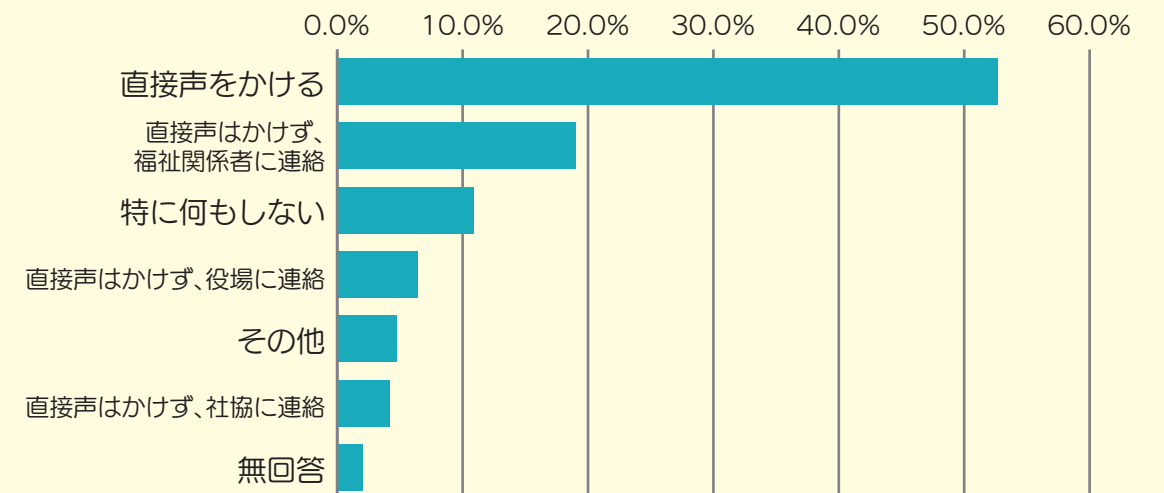


集まる場の設定について、いずれの世代でも「集落センター」と返答した方が多く、また「はあとびあやなびあす」と答えた方は20代～30代に多く見られました。「空き家」と返答した方も、5年前に比べ大きく増加しました。

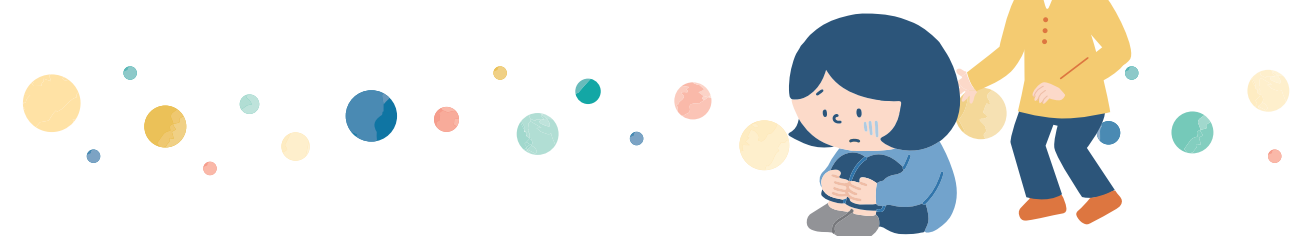
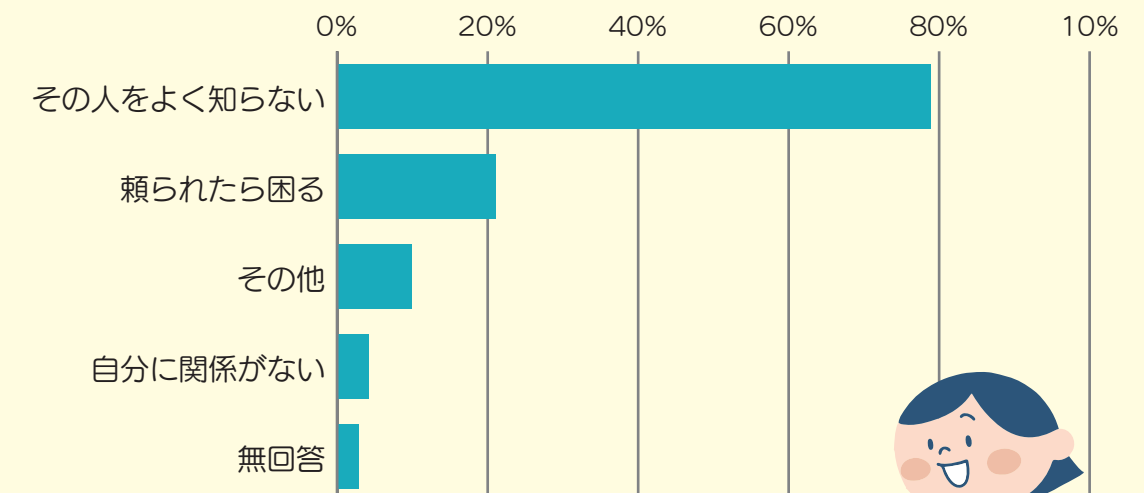


集落の中で、普段関わりがない方が困っている 様子を見かけたら、あなたはどうしますか？（〇は一つだけ）

「集落で困っている人を見かけたらどうするか」の間では、「直接声をかける」と回答した人が過半数でした。一方で、「何もしない」と回答した人は、20代～30代ではおよそ2割に及びました。また、「何もしない」理由としては、「その人のことをよく知らないから」と回答した人が最も多く、集落住民同士がお互いを知る機会を創出していく必要があります。



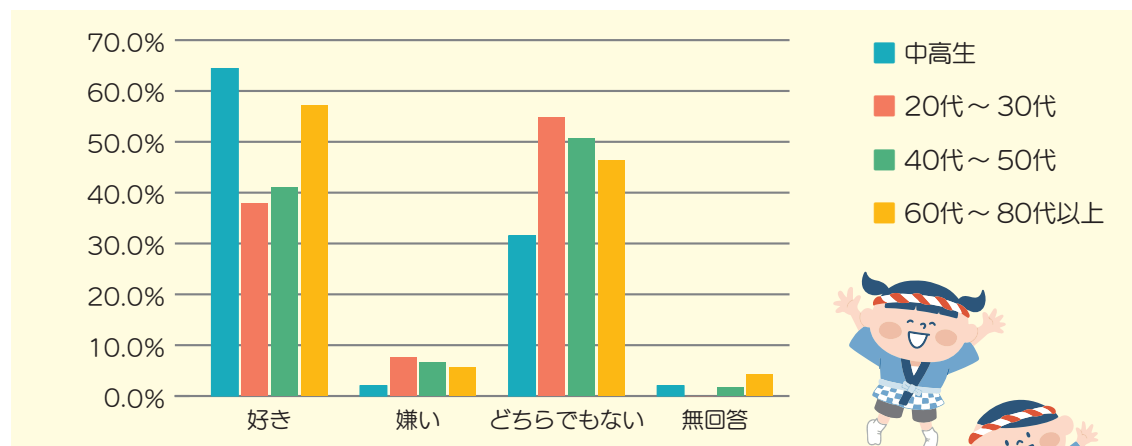
（「特に何もしない」を選ばれた方へ）その理由を教えてください。（複数回答）



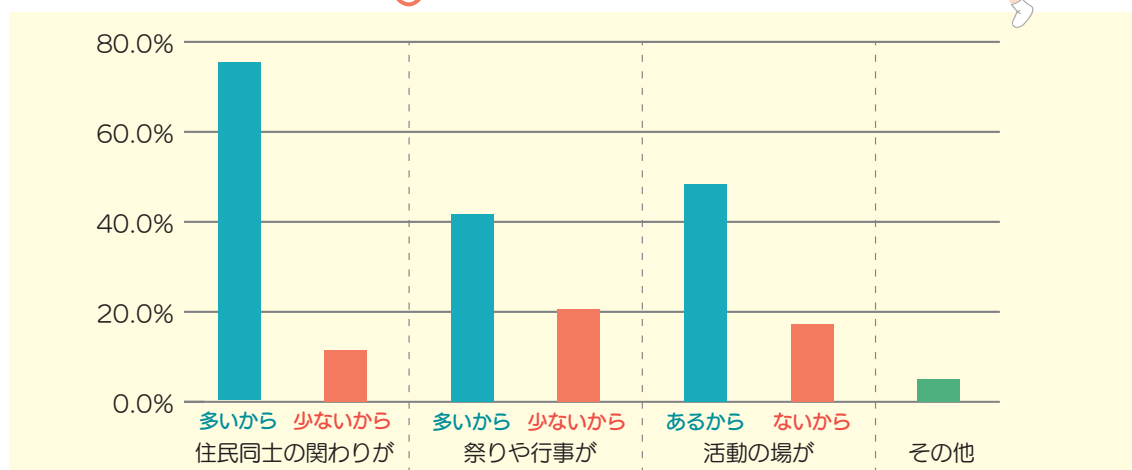


あなたはご自身の集落が好きですか？（複数回答）

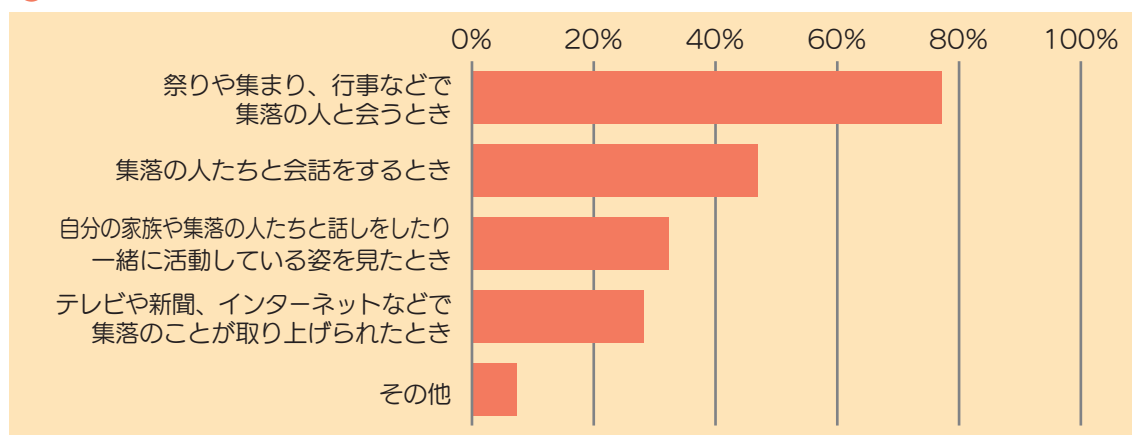
自分の集落が「好き」と答えた人の割合がいずれの世代でも多かった一方、20代～50代では、「どちらでもない」を選んだ方が、「好き」を上回る割合で多く見られました。



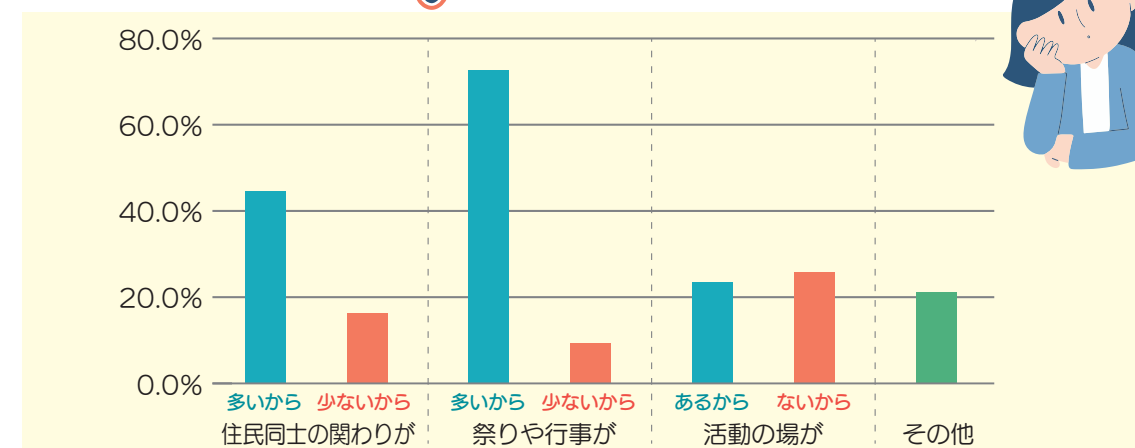
「好き」な理由



どんな時に「好き」だと感じますか？（中高生）（複数回答）

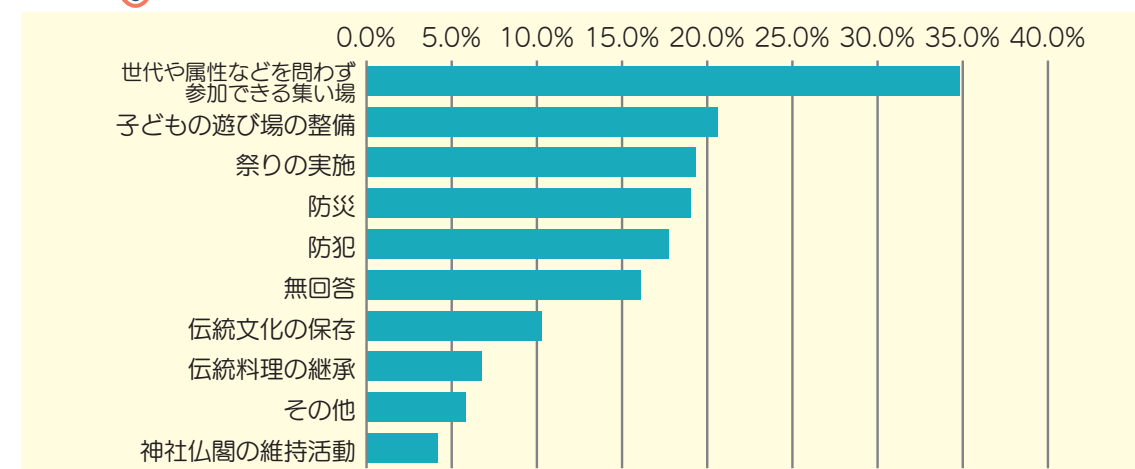


「嫌い」な理由

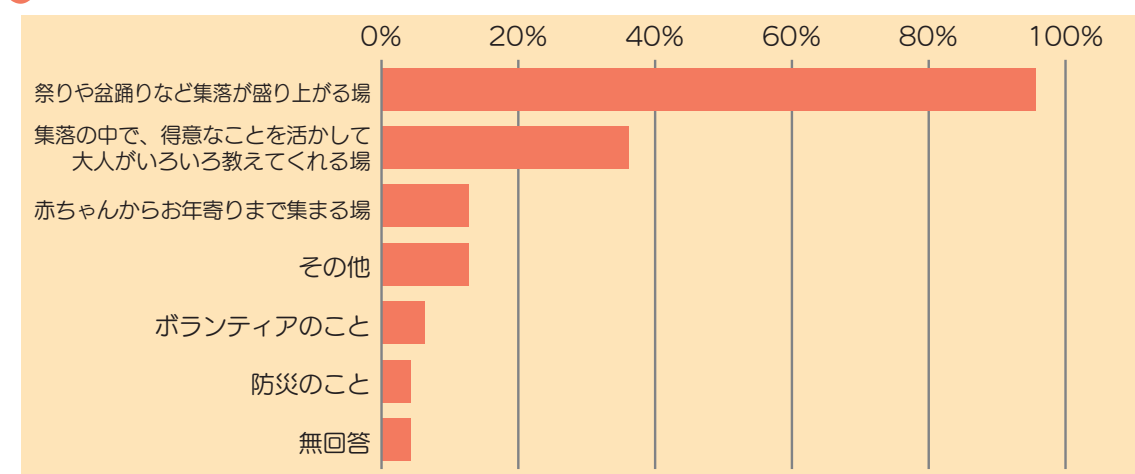


「どちらでもない」と答えた方に、集落に関心が持てる活動について尋ねたところ、全体では「世代や属性を問わない集いの場」を選んだ方が最多でしたが、20代～30代では、「子どもの遊び場の整備」が最多でした。また60代以降では、防犯や防災への取り組みを選んだ方の割合も多くなっています。

集落でどんな取り組みが進められたら関心が持てますか？

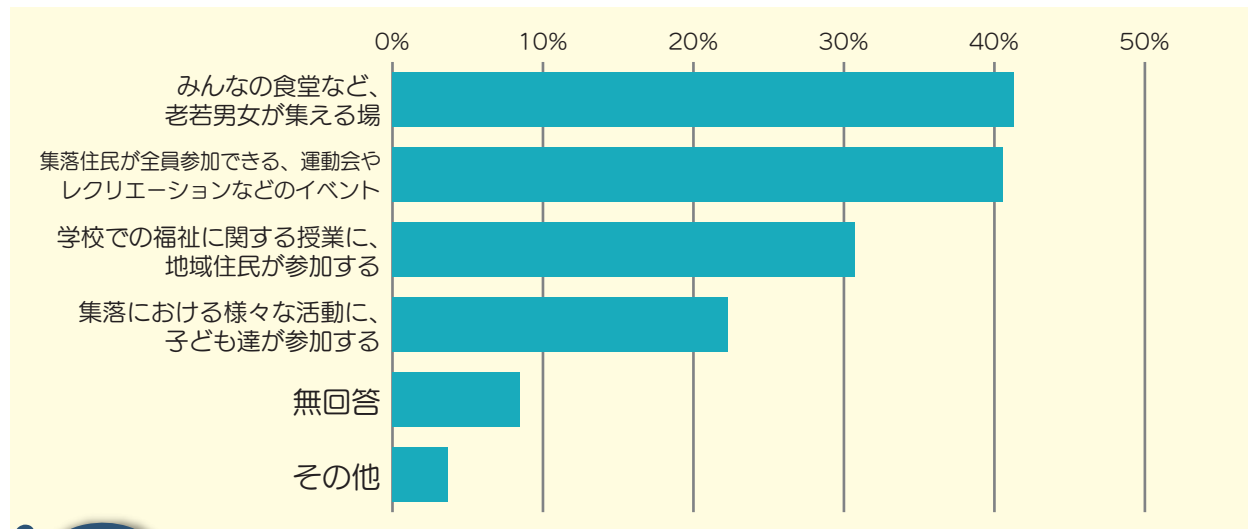


集落でどんな活動が行われたら、集落を好きになると思いますか？（中高生）（複数回答）

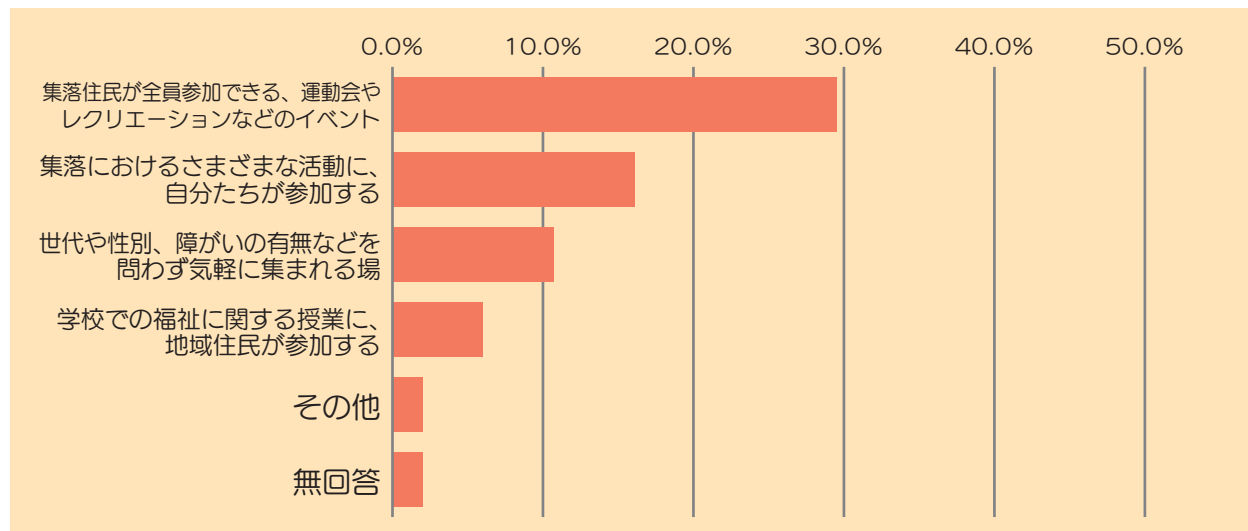




地域や社会で暮らす様々な人達（子ども、大人、高齢者、障がい者など、あらゆる人達）が、お互いを知り、理解する（多様性の尊重）ために、どのような場が必要だと思いますか？（複数回答）



集落到に住む人同士、また美浜町に住む人同士がお互いをよく知るために、どのような場があるとよいと思いますか？（中高生）（複数回答）



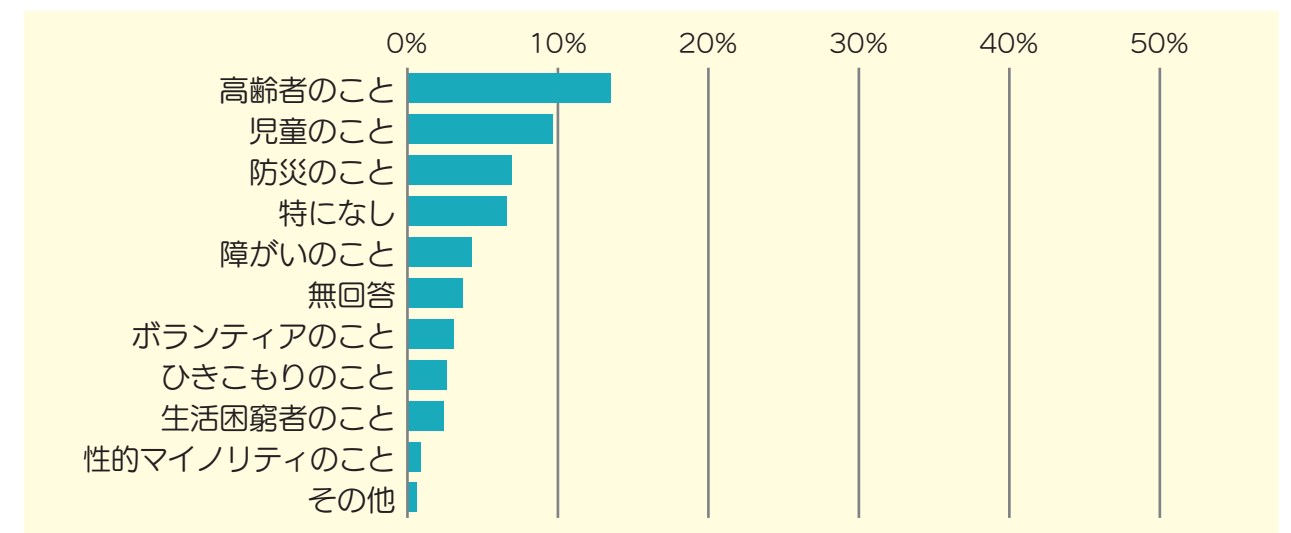
集落住民全員が参加できるイベント、また「みんなの食堂」など世代属性問わず集える場を選択した方は、あらゆる世代で多く見られました。「その他」の意見としては、「（住民同士が）お互いにオープンに対話できる場」「気負わず気軽に集まれる場」など、様々な意見が聞かれました。



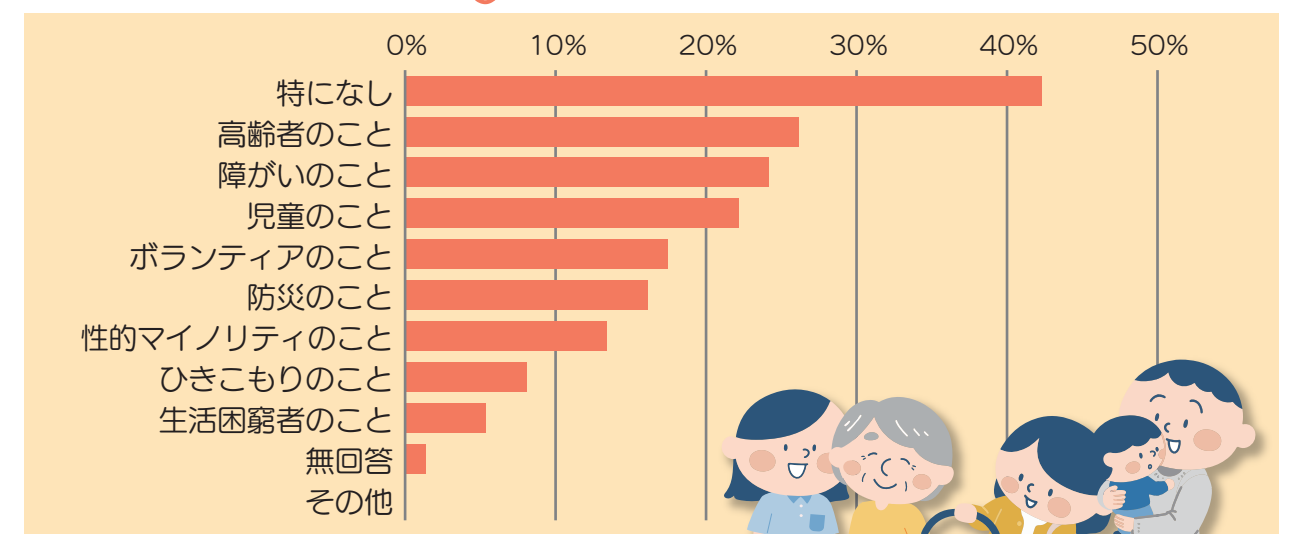
福祉に関する事柄について、あなたは何に関心がありますか？（複数回答）

20代～30代では「児童のこと」、60代以降では「高齢者のこと」が最多となっており、自分自身や自分の生活に密着した事柄ほど関心が高いと言えます。また、中高生については「特になし」が最多となり、現在小学校を中心として実施している福祉学習を中学校や高校でも実施し、関心を持ってもらう必要があります。

全体としては、防災やボランティアについては、生活に近い事柄でありながら、選んだ人の割合は低く、生活困窮者やひきこもり、性的マイノリティとともに、社会的な関心と地域における関心との間には、いまだ乖離があることが分かりました。

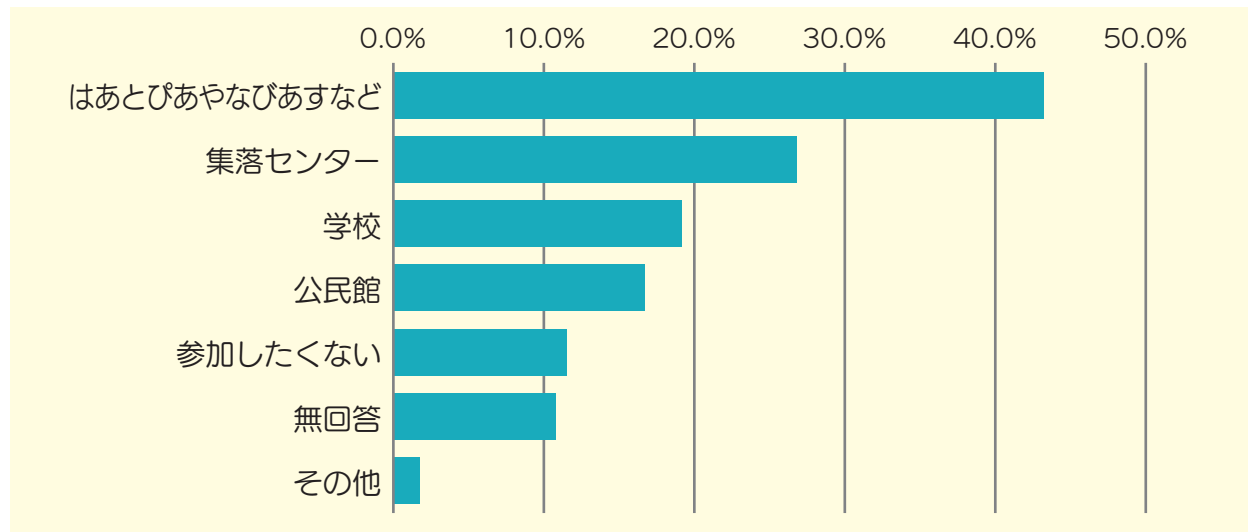


中高生（複数回答）

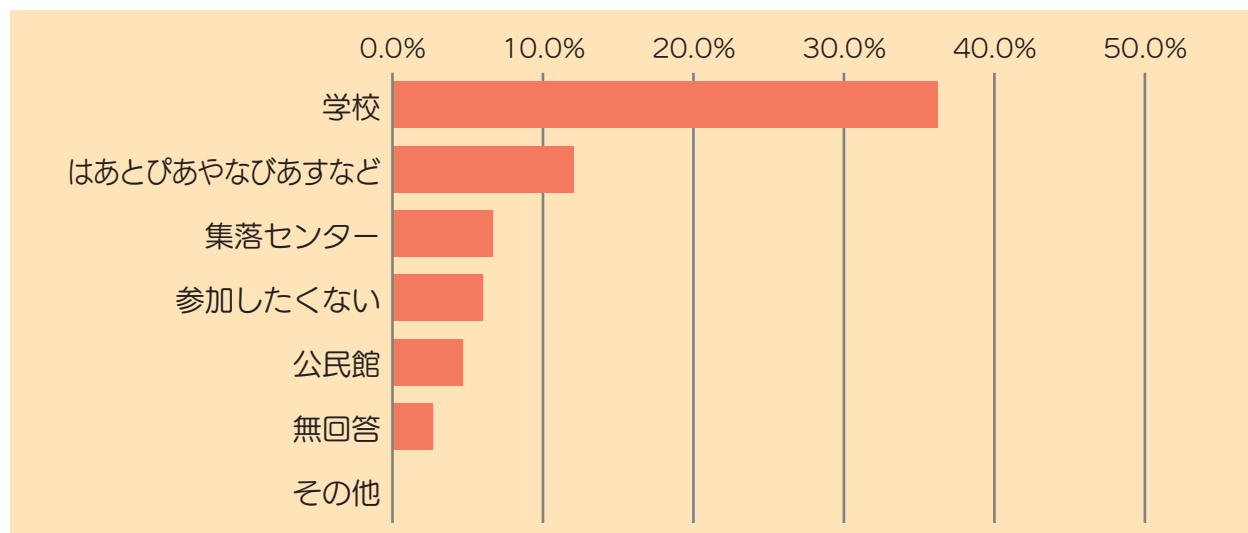




関心のある事柄を学ぶ機会がどのような場所で
開催されたら、あなたは参加したいですか？（複数回答）



中高生（複数回答）

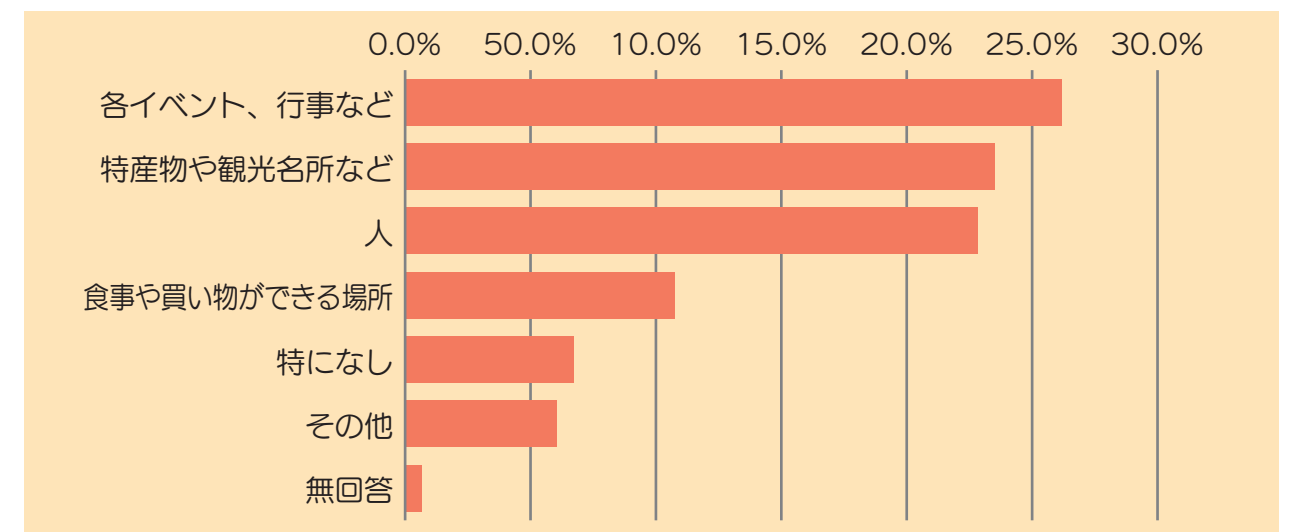


前問で選んだ事柄を学ぶ場の希望を尋ねたところ、20代～50代までは「はあとびあやなびあすなど」を選んだ方が最多でした。一方で60代以降の方は「集落センター」を選んだ方が最多となり、高齢になるほど身近な圏域での開催を求める声が多いことが分かりました。

また全世代を通じて「参加したくない」という声も聞かれ、福祉に関する情報をできるだけ広く届けるツールの充実や、住民のみなさんが主体での学び合いの場づくりを通じて、より住みやすい地域づくりについて「我がごと」として捉えていただける場づくりが求められています。



あなたは美浜町の、
どんなところに魅力を感じますか？（中高生）（複数回答）



中高生が感じる「美浜町の魅力」を尋ねたところ、最も多かったのは「各イベント、行事など」で、次いで「特産物や観光名所など」でした。町の賑わいや活気をもたらす活動が、魅力につながっていることが分かりました。また、「人」と答えた方の割合も多く、「人の魅力」が「町の魅力」に結びついていることも分かりました。一方で、「特になし」を選んだ方、または「無回答」とされた方は、合わせて7%ほどおられました。

「その他」の内容としては、「自然」と答えた人が多く、また「ポート王国」との答えも見られました。



◎策定委員会

策定委員長

氏 名（敬称略）	選 出 区 分
乙 見 康 夫	美浜町社会福祉協議会会長

策定委員（氏名の五十音順）

氏 名（敬称略）	選 出 区 分
秋 山 義 嗣	元美浜町社協事務局長
大 塩 友 之	地区代表者（耳地区）
加賀山 信 之	地区代表者（東地区）
加 藤 浩	美浜町教育長
兼 田 和 雄	美浜町議会代表
加 茂 ひろ子	美浜町みんなの食堂ネットワーク代表
北 山 大志郎	NPO法人ふるさと福井サポートセンター理事長
熊 谷 誓 成	美浜町社協事務局長
芝 井 あさ子	美浜町民生児童委員協議会会長
玉 井 文 子	美浜町ボランティアの会代表
田 村 孝 子	ほのぼの家族いまい理事長
中 嶋 幸 子	健康福祉課専門員・地域福祉活動計画策定 ワーキング部会
橋 本 千栄子	地区代表者（西郷地区）
橋 本 佳 和	財務管理について識見を有する者
堀 川 ふじ子	社会福祉事業について識見を有する者
森 本 哲	美浜町耳公民館長
四ツ橋 政 和	はこべの家施設長

オブザーバー

氏 名（敬称略）	選 出 区 分
武 藤 功 士	県社協地域福祉課地域共生グループ 地域福祉活動計画策定委員会オブザーバー

◎策定委員会ワーキング部会

氏 名（敬称略）	選 出 区 分
中 嶋 幸 子	美浜町健康福祉課 地域福祉専門員
家 光 薫	美浜町社会福祉協議会 事務局次長
松 本 みどり	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループリーダー
小 泉 明 香	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ
磯 辺 大 地	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ
中 村 紀 子	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ
塩 濱 功 平	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ
高 木 涼 子	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ
前 美 里	美浜町社会福祉協議会 地域福祉活動推進グループ

